

20. 三次市最高峰

船山 (939.8m)

三次市



三次市と庄原市との境にある山。庄原側のふるさと村高暮の管理者によると数年前保育園児が登ったこともあるそうだが、現在は登山ルートは荒れている。

三次市	2017,10,1 推定
<面積>	778.14km ²
<人口>	52,298人
<人口密度>	67.2人/km ²

ふるさと村高暮

～高暮小学校跡～

【山行日】10月21日(土)

【参加者】5名 CL谷本 進 SL小川勝正
三浦 宮木(一) 滝

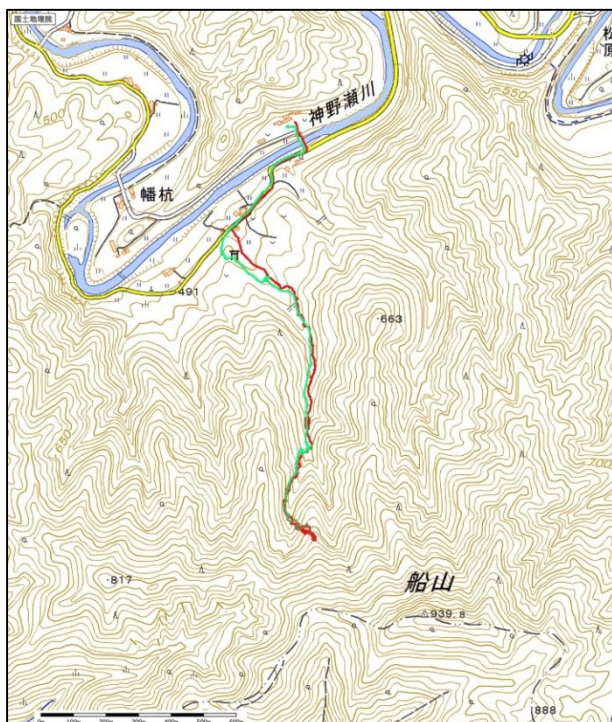
【コースタイム】

中筋(8:00) ⇒高野IC(9:30) ⇒ふるさと村高暮
(10:05) →登山口(10:15)→昼食(12:05～12:20) →
ふるさと村高暮(14:10) ⇒広島(16:00)

【報告】

超大型で非常に強い台風が接近していて、午後の降雨確率が極めて高いという気象情報の中、一縷の望みをかけて車を走らせることにした。

ふるさと村高暮に車を置かせてもらい、山に向かう。下見では登頂がかなわなかったこともあり、登山口を少し手前に変えて山へ入って行く。歩き始めてしばらくは、そんなに難しい藪漕ぎではなかったが、崩れた堰堤と思われるところを過ぎてからは、長い急登の非常に厳しい藪漕ぎとなり、12時の時点でスマホと照合してみると、現在地から頂上まで約150mの標高差があることがわかった。このまま進んでも視界がますます悪くなる感じで、空模様



も間違いなく不安定になってきていた。昼食を済ませて、残念ながら下山を決断した。

下山を始めてまもなく、登ってきた急坂ではないような気がしてスマホを見ると、案の定違った方向に進んでいることがわかった。方向転換して元の道?に戻ってからは、登る途中に木の枝に付けた赤いテープを確認しながら、ほぼ順調に下山することができた。車での帰途は予想通りどしゃ降りの雨になった。下山まで雨が降らなかったのは本当に幸運であったが、下見でできなかった登頂のリベンジがまたしてもできず、悔しい山行になった。

(記 谷本 進)

船山の西には高暮ダム、ダム建設でできた神野瀬湖がある。

高暮ダムは土木学会「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物 2000 選」に選定されている遺産で、現在も水力発電をしている。江の川水系では落差が最も大きいダムらしい。1940年、日中戦争のさなかに建設され始めたようで、発注は「日本発送電株式会社」という国家総力戦体制の中で作られた国策統制会社名になっている。完成は敗戦後の1949年で、今は中国電力の管理下にある。



ダムの近くには2カ所慰霊碑が立っていて、工事の大変さを物語っている。特に戦後の聞き取り調査の中で、朝鮮からの労働者の犠牲が多大であったことが明らかになる。あまりにもむごい事実、供養せず埋められた遺骨を何年も通り探し出された福山の方、その遺骨を引き取り供養し納骨された高暮の西善寺住職等々……。そんな人たちの思いを集めて1995年朝鮮人犠牲者の碑がつくられた。その碑の前で2000年から高暮自治会、広島の高校生、広島朝鮮学校高等部の生徒などが参加して、毎年「高暮平和のつどい」が行われている。参加した日・朝の高校生たちは、「ふるさと村高暮」に宿泊し、交流を深めているそうである。2017年は8月27日に開催。



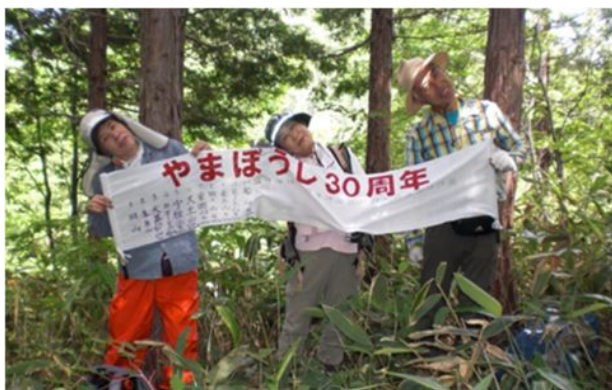
朝鮮人犠牲者の碑



2016, 9,11 に行われた平和のつどい。
約100人が参加。～毎日新聞記事より～



三次市最高峰船山を目の前に！ 西側尾根で



今までやまぼうしで登った三次市の他の山

比叡尾山 頭士山 君田冠山
男鹿山 女亀山